

# 第34回「天台聲明を聴く会」

## —慈母讚嘆報恩会式と御詠歌—

■と き 令和5年5月21日（日）午後5時開演

■と ころ 雨宝山龍雲寺（桃山善光寺）本堂

京都市伏見区毛利長門東町37 電話 075-611-4854

■習礼曲目 慈母讚嘆報恩会式と御詠歌

今回お唱えする声明曲「百石讚嘆（ももじゃくさんだん）」は七五調の和讃の形式が整う前段階の和文の仏教歌謡で「百石讚嘆」「法華讚嘆」「舍利讚嘆」の三讚嘆の一つであります。永観2年（984）に源為憲によって著された『三宝絵』が「百石讚嘆」の初見です。

「ももさくに やそさかそへて たまたてし ちぶさのむくい けふせずは いつかわがせん  
としはをつさよはへにつつ」

（『三宝絵』下、僧宝の十八、四月、灌仏）

「百石讚嘆」は『三宝絵』の他に『拾遺和歌集』の短歌形式、比叡山所伝の十句体、高野山所伝の十四区体が伝えられています。

「百石に 八十そへて 給ひしに 乳房の報い 今日ぞわがするや 今日ぞわがするや  
今日せでは 何かはすべき 年も経ぬべし さ代も経ぬべし」

（叡山所伝）

私たちは母の乳を百八十石（32,470ℓ）も飲ませてもらい育てていただいたことに基づいて、母の恩を讚嘆し、これに報いる意味を詠じたもので、4月8日の灌仏会にお唱えしたといわれています。

自分が生きている間はこの苦しみを一身に引き受けようとして、死後も子を護りたいと願う。母の恩の重いことは、天に極まりがないようなものであることに改めて報恩感謝の気持ちを持ち、その思いを次世代に継承していければとの願いを込めてお聴き頂ければ幸いです。

合掌

京都魚山声明研究会

代表 須川實洽

## ■次 第

○解説 京都魚山声明研究会 代表 須川實洽

次 百石讚嘆

先入堂 御詠歌（比叡山讚歌）付歌として

次 御詠歌 父母の恩供養和讃

次 僧 讚

次 独 音

次 総礼詞

次 吉慶梵語讚

次 総 礼

次 後 唄

次 表 白

次 出 堂

次 御詠歌 百石讚嘆

○ 挨拶 龍雲寺住職 本多実信

## ■出 仕（出演者）

### —京都魚山声明研究会—

本多 実信	齋藤 良成
須川 實治	本多 寂信
信楽 香爾	木ノ下寂優
本郷 泉観	羽生田光昭
高山 良彦	

### —叡山講福聚教会—

赤松やすみ	野竿 陽子
小松 昌玉	本多 絢子
中島 恵海	

## —「天台声明を聴く会」—

本会の南座声明公演は①1997年8月②2000年7月、天納傳中先生亡き後③2004年6月に公演、また2019年7月6日には第4回目を「京都魚山声明研究会」導師本多実信龍雲寺住職と「浄土宗西本願寺派」導師今小路覚真常楽寺住職が競演、お世話は松竹水口一夫と私が務めさせていただきました。

仏教音楽である声明は日本現代音楽の根本であるだけでなく、世界に通じる素晴らしい音楽であり文化であることを、中学の恩師天納傳中先生がパリ1978（昭和53年）を皮切りにドイツ、イタリア、ベルギー、デンマーク、ノルウェー、チェコ・プラハから招聘された声明公演のCDやテープを聴きながら教えて頂きました。

更に比叡山延暦寺根本中堂では声明と北欧のヨイク（伝統音楽）との共演があり、声明がアカペラで世界に通用する土着民族の文化であり、日本国に誇れる伝統音楽であることを認識しました。

日本の尊い文化と伝統音楽を是非とも皆様にお伝えすることが本会の目的であり、当初、声明は法要などの儀式であり、一般には公演が為されておりましたが、天納傳中先生のお知恵により、声明の練習風景を皆様にお伝えする「初夜作法 習礼風景・天台声明を聴く会」を1987年（昭和62年）4月に発足し、本年2023年第34回を迎えます。

2023年2月吉日

天台声明を聴く会代表 田村佐起三

